

2026 年 8 月 1 日

■身体的拘束ゼロ宣言

島村記念病院では、一人ひとりの患者さんが安心して療養できる環境を提供するため、「身体的拘束ゼロ」を目指します。

身体的拘束は、患者さんの自由や尊厳を制限するものであり、身体機能や認知機能の低下精神的苦痛など、多くの悪影響を及ぼすことが知られています。

私は病院長として、身体的拘束のゼロに向けて病院全体で取り組んでいくことを、ここに宣言します。そのために次のことを進めてまいります。

- ・拘束に頼らないケアの工夫や良い実践など部署を超えて学び合います。
- ・患者さん・ご家族への説明と理解を大切にし、納得を得られるように努めます。
- ・身体的拘束の実施状況を定期的に確認し、結果を職員全員で共有します。

小さな一歩の積み重ねが、患者さんにとって大きな安心につながると考えています。

私たちは、「身体的拘束をしないこと」を目的とするのではなく、患者さんが安心・安全で、その人らしく過ごせる医療を提供することを目指します。

今後も地域の皆さまから信頼される病院として、身体的拘束ゼロに向けた取り組みを推進してまいります。

島村記念病院 病院長 小森山 広幸

現場の仲間と共に、身体的拘束に頼らない看護を！

ひとり一人の患者さんに、最適で最良の看護を提供するために、看護部として次のことに取り組めます。

- ・夜間や忙しい時間帯であっても、身体的拘束以外の方法をまず検討します。そのうえで個々の状況を常に振り返ります。
- ・身体的拘束に関する研修を定期的実施します。判断に迷った時、すぐに相談しやすいチーム体制を整えます。
- ・身体的拘束を行った場合は、経過や状況などの看護過程をチームで振り返ります。全員で情報を共有し、個々の患者さんに適した代替策を模索します。

「チームのみんなと一緒に考えよう！」と言える、風通しの良い職場風土を醸成してまいります。

島村記念病院 看護部長 岡本真由美